

平成29年度第3回外洋常任委員会 議事録

日時：平成29年9月21日（木）18：30～20：30

場所：株式会社トーヨーアサノ 6F会議室

出席者：（理事）

植松副会長、坂谷定生常務、菊池邦仁、平松隆、
（委員会）

ルール委員会外洋規則小委員長 大村雅一

国際委員会外洋小委員会 鈴木一行

（外洋常任委員会事務局）

鈴木保夫

（順不同、敬称略） 計7名

1. 委員長挨拶

坂谷：植松副会長が本日は30分程度遅れる予定です。

本日は団体長会議の準備の会議としますので宜しくお願いします。

2. 議題

1. 外洋艇推進グループ内規の改定について

坂谷：内規を作成してから4年目となった。

第5条は、現状に合わせて開催時期を9月と1月に変更する。

第7条は、専門委員会委員長にも出席いただいているので、議決権者に専門委員会委員長を加えるための変更です。

第11条は、外洋常任委員会においても議決権者に外洋専門委員会委員長を加えるため、理事を出席者に変更する。

第13条を、ワーキンググループの決定内容の取り扱いとして新設し、現13条が14条に現14条を15条にする。

外洋艇推進グループにおいて、ワーキンググループで協議検討した内容については、これを尊重し、遂行することを原則としたい。

以上承認された。

2. 艇登録・会員管理システム追加開発内容と費用及び負担方法の確認について

坂谷：開発費50万円の内、20万円を外洋艇推進委員会で、残りの30万円については、関東4団体と東海、内海の6団体で各5万円ずつ、計30万円を負担することで前回の団体長会議で説明しているが、今回の団体長会議で確認をする。

3. オリンピック応援フラッグリレーに係る経過と今後の進め方について

坂谷：現在手書きの資料の通り、北海道室蘭にある。

これから、日本海は無理と思うので、これから先は来年となる。

来年は沖縄レースがあるので、別のフラッグで沖縄→蒲郡→5ヶ所湾そしてパールレースで江ノ島まで運ぶ。

日本海は回航する艇が少ないので、会員以外の艇も募集する事を団体長会議に提案する。

鈴木（一）：予算も結構かかるのではないか。

坂谷：基本ボランティアなのであまりかからない予定である。

菊池：いわきでは市長を呼び、新聞テレビも来たので食事会を開いた。

費用は外洋いわきが負担したが、これは震災の復興のために皆さんから支援を頂いたので、恩返しの気持ちもあったのでそうした。

坂谷：今後、菊池さんと大村さんにこのプロジェクトの担当をお願いしたい。

実務は来年の春からとなる。

4. 本年度の外洋レースの結果について

坂谷：これについては報告のみとなるが、小笠原レースは他のレースの報告書と同様に成績を表に纏めて、団体長会議で報告することにする。

5. JSAF 理事定数の改定及び理事選挙について

坂谷：理事に女性枠を設けることになった。

外洋系の女性理事候補を団体長会議までに検討しておきたい。

6. ジャパンカップにおける 2018 年以降の開催方針について

坂谷：先般検討委員会（WG）で協議した。最終的に方針は副会長、常務理事、レース委員長で決めたい。その内容の主たるものは、場所については3年間東海に固定する。2020年にはオリンピックが江ノ島であるので、相模湾での開催は不可能と思われるのが一因だ。

植松：レースはインショアに絞り、ディスタンスレースは短くする。

カテゴリーは、4とし、日没までにフィニッシュするようにする。

開催時期は、10月から11月の間で検討し、最終的には11月3日頃にしたい。

坂谷：クラス分けのみにし、総合は止める。

7. 全日本ミドルボート選手権について

坂谷：本年の全日本ミドルボートにおいてオーナーの会議を行った。

ミドルボート協会がないので、KYC 主催で行ったり外洋東海主催で行ったりしているので、クラス協会を設立して J S A F の特別加盟団体になり協会主催での開催が望ましいという話をした。

植松：関東ミドルボートクラブとの問題がある。

大村：クラス協会の申請については、同一の艇種別協会は二つあってはならないと

規定されている。

また、クラブの申請の場合は、3年間の活動実績が必要となる。

坂谷：関東ミドルボート協会の会長に設立の案内を出しているようだ。

植松：平松理事に関東ミドルボートとの調整をお願いしたい。

8. ライフジャケットの着用義務化と JSAF の対応について

大村：現在小型船舶操縦士以外の同乗者はライフジャケットの着用は義務ではなかったが、平成 30 年 2 月 1 日より、乗船者全員の桜マーク付きのライフジャケットの着用が義務となる。それに対して、レース及びレース練習中の特例が認められた。

9. オリンピックショーケースイベントについて

鈴木（一）：ショーケースイベントについて、加盟団体への説明はまだ行っていない。

アンディーハートと今週末会うので、その結果で内容が変わる。

ワールドセーリングはやる気になっている。

24日の会議の結果を植松副会長が団体長会議で説明する。

10. 専門委員会報告

鈴木（一）：レーティングにおいて一部で誤解が生じているようである。

JSAF のスタンスは IRC がメインであるということが、理解されていないようである。

11. 外洋加盟団体長会議における議題の調整について

坂谷：外洋玄海が解散を検討している。

今回の団体長会議には、福岡ヨットクラブが委任状を持って出席する予定。

今後、同じようなことが起きた場合の対策を検討しておきたい。

団体長会議では、福岡ヨットクラブから話を聴いて結論は出さず、今後の検討課題としたい。

鈴木（一）：団体が減ると評議員が減る。

大村：将来のセーラーの受け皿を考えておかなければならない。

12. その他

平松：外洋三浦で、団体長会議の回数が多いとの意見があり、団体長会議において会議を減らす提案が外洋三浦から提案される予定。

以上。

文責：鈴木保夫